

私たちの生活と経済

～納税の意義と役割を理解させる授業例～

北海道旭川市立東陽中学校 山辺慎太郎

生徒の興味をひきつける

本稿では、納税の意義と役割について生徒に理解させる授業の案を紹介する。

授業の導入として、ワークシートを配布し、「アメリカでこんなことがありました。」と言って、次の話をする（以下、囲み内は授業者の発言）。

2010年秋にアメリカのテネシー州サウスフルトン市というところで起こった本当の話です。

ある家、Aさんとしましょう、Aさんの家が火事になりました。Aさんは急いで消防署に電話をします。

ところが、火事が起きているにもかかわらず、消防隊はAさんの家に向かおうとしません。消火活動が行われないうちに、Aさんの家は、どんどん燃えていきます。やがて、隣のBさんの家へと、火は燃え広がっていきま

した。隣のBさんの家に火が燃え移って、はじめて消防隊が出動しました。

現場に到着した消防隊。消防隊が消火活動を行ったのは、火が燃え移ったBさんの家だけでした。はじめに火が出たAさんの家に対して、消防隊は消火活動をまったく行いませんでした。結局、Aさんの家は全焼。焼け落ちてしまいました。

「さて、ここで問題です。」と言って、次の発問をする。

発問 消防隊がAさんの家には何もしないで、Bさんの家だけに消火活動を行ったのはなぜでしょうか。

生徒に予想をワークシート（本誌p.23参照）の「課題1」に書かせ、発表させる。導入なので、ここでは自由に生徒の発言を引き出して教室の雰囲気盛り上げる。

生徒の予想を受けて、説明する。

こんなことが起こった理由。それは、サウスフルトン市の消防のしくみによるものでした。それは、「消防サービスを受けるために、市に毎年75ドルの税金を支払う」というしくみです。実はAさん、この75ドルを支払っていませんでした。そのため、消火活動を行ってもらえませんでした。隣のBさんは、ちゃんと支払っていたので消火してもらえました。

サウスフルトン市の市長はこの件について、次のようにコメントしました。

「消火活動は、市が提供するサービスですから、そのサービスを受ける受けないは住民の自由。払えと強制するわけではないです。もちろん払わないとサービスは受けられません」

ワークシートの正解の欄に、「Aさんは、サービスを受けるための税金を払っておらず、Bさんは払っていたから」と書かせる。

生徒が、正解を聞いてどう思ったか。感想を何人かに発表させ、それを受けて説明を加える。

日本では、税金を払っていないからといって消防隊が消火活動をしてくれないということはありません。でも、日本でも、国や地方公共団体が、国民から税金を集めて、消防などのサービスやモノを提供しているということは同じです。

簡単に、生徒が支払っている税金の種類を発表させる。「消費税」などがあがると思うが、ここでは税金の種類については詳しく扱わない。生徒も税金を負担している納税者であることがわかればよい。

国民から納められた税金の使い道の例として、消防署の施設や道具、消防隊員の給料など消防にかかわる費用があることを説明する。ちなみに、消防車の値段について北九州市のホームページに、普通消防ポンプ自動車…約3,300万円、水槽付ポンプ自動車…約4,600万円、30m級はしご付消防自動車…約1億6,000万円とあった。

2 もし国民が税金を納めなかったら？

『社会科 中学生の公民』（以下、教科書）p.156「私たちの生活と財政」を生徒に読ませ、「財政」という用語の定義（政府が、税金などの収入をもとに、国民にモノやサービスを提供するはたらき）をおさえさせる。

続けて、次のように問う。

発問 政府が国民にモノやサービスを提供するためには、お金がかかります。そのお金は税金でまかっています。

では、想像してみてください。もし国民がみんな税金を納めなかったら、いっ

たいどんなことが起こるでしょうか。

ワークシートの「課題2」「もし…」のところに考えを書かせる。

学校、警察、街・地域の三つの視点で、どのようなことが起こるかを考えさせる。

いきなり「税金がなかったらどうなる？」と幅広く生徒に発問しても、思考が拡散して何を書いたらよいかわからない生徒も出てくるであろう。

まず具体的な例を提示して、思考の足場を組ませたい。そのために、学校と警察の二つの項目をあげた。これら二つについては、その費用が税金によってまかなわれている機関として、生徒にとってわかりやすいと考えたからである。生徒の実態に応じて、その他にもいろいろな例が考えられる。

学校について考えるときには、教科書p.156の写真が思考のヒントになる。生徒から「机や机が壊れたときに直せない。新しいものを買えない」「教科書がなくなる」などの意見が出てくるのが期待できる。生徒にとって、考えやすい項目であろう。

また、何か事件があったときに警察を呼ぶと料金がかかると考えている生徒はいないであろう。消防サービスと同様に、もし国民が税金を納めなかったら警察という組織が成り立たず、国民生活に大きな混乱が生じることは、生徒にとっても容易に想像がつくはずである。さまざまな考えが出されることが期待できる。

街（まち）・地域については、学校・警察よりも思考のハードルが上がっている。生徒は、街中や地域の中から、「財政」に関わるものを見つけなくてはならない。ここでは、道路、信号など交通に関わること、ゴミや上下水道など公衆衛生に関することなどに気が

ついてほしいと考えている。

この「街・地域」の項目を設けたねらいがそこにある。すなわち、「財政」の役割が「民間企業から提供されにくいモノやサービスを提供すること」、さらに、それが私たちの生活の中で多岐にわたっていることに、生徒たち自身で気づかせることをねらっている。

書いたものを生徒に発表させる中で、財政には関わりのないものも多く出てくると予想される。そのような「誤答」も取りあげながら、財政の役割について、生徒の理解を深めさせていく。

そして、この課題2を通じて、財政の果たす役割が、私たちの生活の中でいかに重要なものであるかを知らせ、それを支える税金を納めることが、国民として重要であることを理解させる。

その後、教科書p.157「経済の循環と財政の役割」を読み、財政の役割についてまとめる。財政の役割の二つ目「所得の再分配」と三つ目の「財政政策」については、生徒自身でなかなか気がつきにくいところである。この二つについて簡単に説明をする。

3 時事問題にもふれて

『アドバンス 中学公民資料』 p.97に「考えるコラム 救急車を有料に？」がある。「救

急車の有料化」の問題は、テレビの報道番組などでもたびたび扱われている題材で、見聞きしたことがある生徒もいるはずである。

コラムを読み、この問題について賛成・反対の両方の意見があることにおかれ、生徒にも考えさせたい。

発問 救急車を有料化することにあなたは賛成ですか。それとも反対ですか。

ワークシートの「救急車の有料化について」の欄に、賛成か、反対か、その理由もあわせて考えを記入させる。

賛成派、反対派に分けて意見を発表させる。反論や質問があれば、発表させ、意見を交流させる。まとめとして、生徒自身が納税者として考えること、意見をもつことの大切さを伝えたい。

この「救急車の有料化」は、現在進行形の問題です。現実には、今、起こっている問題です。人の命に関わる問題でもあります。この教室の中だけで簡単に結論が出る問題ではありません。今も議論が続けられています。答えはまだ出ていません。

救急車の費用は、私たちが納めている税金でまかなわれています。ここで大切なのは、賛成か、それとも反対か、どうしたらこの問題が解決できるのか、税金を納める一人の日本人として、考え、意見をもつことです。私たちは、納税者として、税金がどのように使

われているかを知り、問題があったときには、解決のために努力しなければいけません。

考えるコラム

救急車を有料に？



↑患者を病院に搬送する救急隊員

救急車の出動件数が急増しているが、要請の約半数は入院の必要のない軽症者である。なかには「無料だから」「救急車で行けば優先的に診察してもらえそう」など不適切な利用もあり、一刻を争う救急救命処置や病院への搬送が遅れてしまうこともある。政府は適切な利用を呼びかけているが、出動抑制のために救急サービスを有料化すべきとの意見もある。

軽症 (入院を必要としないもの) 50.8%	中等症 (入院を必要とするもので重症ではないもの) 37.6%	重症 (※) 10.0%	死亡 1.5%
合計搬送人員数 4,678,636人			←救急自動車による傷病程度別搬送人員 (平成20年)
※傷病の程度が3週間以上の入院を必要とするもの (消防庁資料)			

Yes No

救急車は無料だと思われているけれど、税金でまかなわれている。ほんとうに必要なときに使えるように、また、安易な利用を減らすためには有料化すべきだ。

ほんとうに必要なのに有料だけれど、税金でまかなわれているかもしれない。ひとり暮らしの高齢者や収入の少ない人が使う必要があるときに使えない可能性もある。

『アドバンス 中学公民資料』 p.97

中3公民ワークシート

私たちの生活と財政

【 】組【 】番 氏名【 】

2010年秋にアメリカのテネシー州サウスフルトン市で起こった本当の話。

Aさんの家が火事になった。Aさんは急いで消防署に電話をした。

ところが、火事が起こっているにもかかわらず、消防隊はAさんの家に向かおうとしなかった。消火活動が行われないまま、Aさんの家は、どんどん燃えていった。やがて、隣のBさんの家へと、火は燃え広がっていった。

隣のBさんの家に火が燃え移って、はじめて消防隊が出動した。

現場に到着した消防隊が消火活動を行ったのは、火が燃え移ったBさんの家だけだった。はじめに火が出たAさんの家に対して、消防隊は消火活動をまったく行わなかった。結局、Aさんの家は全焼。焼け落ちてしまった。

課題1 消防隊がAさんの家には何もしないで、Bさんの家だけに消火活動を行ったのはなぜでしょう。

予想

正解は…

課題2 「もし・・・」

学校では…

警察では…

街（まち）・地域では…

課題3 救急車の有料化について